

< 2006年 年頭の御挨拶 >

太田市医師会長 有坂 實

明けましておめでとうございます。皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。

昨年中も色々なことがございました。2005年4月、鶴谷県医新執行部が誕生し活動を開始致しました。矢継ぎ早に思い切りの良い新施策を実行に移し、地域を越えた相互乗り入れ基本検診・国保社保の整合性のある適切なレセプト審査方式、新研修医制度等の煽りによる小児科・産科・脳外科・神経内科・麻酔科等医師不足と、地域医療サービス連携ネットワークの行政との再構築等に期待しております。新設「県医総研」にも質の高い方向性と指導が頂けますれば幸甚に存じます。

国外でも変化の大きいスピードのある過酷な天変地異と事件が続きました。温暖化現象でシベリアの永久凍土が溶け出し海面が不気味に上昇しております。昨夏、名古屋万博で永久凍土溶解のため見付けられた綺麗なマンモスを見て参りましたが、喜んでばかりおられません。地球全体的規模で環境破壊が進んでおります。せめて「京都議定書」を全世界の国々が批准に賛成して欲しいものです。

9：11衆議院議員総選挙には驚嘆いたしました。郵政民営化法案がついに可決致しました。自民党の地滑りの圧勝でした。「2005年体制」が確立し“小泉劇場”に踊らされて、すべて小泉総理の思惑通りに決着しました。“なんでも出来るようになった”此の勝ち過ぎ体制は医師会にとりましてはマイナスに作用するとの見方が一般的評価です。

昨年12月1日正式決定されました「医療改革大綱」に因りますと、高齢者重く乳幼児軽い「少子化時代シフト」ではあります。厚生労働省の試算では2006年度に900億円の国の歳出削減が見込まれると公表しています。内訳は、現役並み所得の高齢者の負担見直しなどが800億円。2008年度からは、70～74歳の高齢者の負担が原則1割から2割へと引き上げられるため、更に財政負担が軽くなるとしています。逆に負担減を打ち出したのは、乳幼児の負担です。現在、一般より低い2割負担となっているのは3歳未満ですが、対象をおおむね6歳以下の未就学児に拡大しました。しかし群馬県下では市町村の御努力で殆どの地域に於いて未就学児無料の政策が採られております。

平成18年度診療報酬点数の改定作業が進んでおります。ほとんどが点数削減作業です。診療報酬3.16%削減その内薬価部分1.8%削減、また介護報酬は本年4月0.5%削減昨年10月の既改定部分と合算2.4%削減を決めております。現小泉政権は数を頼んで如何なる改革も出来るでしょう。しかし日本社会の安定化装置である公的医療保険「国民皆保険」と郵政省の簡易保険制度「簡保」は絶対に商業化から守るべきものであります。「簡保」は小口であることと、無審査という簡易な加入手続きが特色です。元来簡易生命保険制度は、民間の生命保険に加入できない低所得者にも保険というセーフティネットを提供することが目的で大正5年に創設されたものです。ビジネスというよりは日本社会の安定化装置なのです。日本は今ではUSAに次ぐ第二の保険大国です。ビジネスオンリーの国からみると垂涎の市場であり、安定化装置を外された日本がどうなっても此の方は全く関心がないのです。この「簡保」以上に“誰でも”“いつでも”“どこでも”アクセスできる「国民皆保険」は日本社会のより強力な安定化装置なのです。ビジネスの対象にさせては絶対にいけません！！

こんな視点から考えますと、生命保険と医療保険の民営化も日本企業のメリットになるのではなく、さらに大きな資本力により最近数年で殆どの日本の生保会社を支配してしまった外資系企業が利益を享受することになると思われまます。小泉総理は外資系企業のために乗せられ邁進しているように思われてなりません。日本丸が沈没しないように舵取りをしっかりとお願い致します。参考文献：警告レポート<文藝春秋>昨年十二月号関岡英之著「奪われる日本」－（年次改革要望書・米国の日本改造計画）と<文春新書>「拒否できない日本」をご覧ください。

さて太田市の医療は医師不足のため大変病んでおります。太田市最大規模の病院の小児科・産科等の救急医療が特に危機的状態です。これから暫くの間は、殊に救急医療は太田市内完結型不可能の症例も多々あると考えられ、近隣行政・医師会の医療機関のご理解も頂きまして協調し広域完結型の方向に意識改革もし、患者様にも相互乗り入れしている旨説明しながら診療の実を上げて行きたいと考えております。今後とも行政・医師派遣大学・県医師会とも相談し充分話し合っただけでなく地域医療充実のため太医執行部は努力を惜しみません。会員の先生方の御協力御支援情報提供をお願い致します。

最後になりますが、群馬県医師会・太田市医師会・県下郡市医師会先生方関係各位皆様様の御健勝と御活躍を祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

平成十八年 戊午 元旦